表多の 新題

アイヌ民族の伝統儀式 「カムイノミ・イチャルパ」



神々に感謝の祈りをささげたカムイノミ

アイヌ民族の伝統儀式で、神々に感謝の祈りをささげるカムイノ ミと先祖供養のイチャルパが10月3日、秋めく軽舞遺跡調査整理 事務所前の広場で執り行われました。

伝統儀式は、厚真アイヌ協会が主催し、苫小牧アイヌ協会共催、 町教育委員会が協力。北海道胆振東部地震で3年間、中断していま したが、札幌医科大学から9月27日、幌内地区の遺跡発掘調査で 見つかったアイヌ遺骨13体が町へ返還されたこともあり、今回、 開催されました。

儀式では、祭司の厚真アイヌ協会長がアイヌ語で神々に祈り、 来賓の宮坂町長、渡部議長、遠藤教育長らがトノト(お酒)をささげ ました。また、苫小牧アイヌ文化保存会が古式舞踊を披露。東京 2020オリンピック開会式の演舞指導者2人も加わり、リズミカル で迫力ある演舞を繰り広げました。

このほか、遺跡発掘調査で見つかった国内第一級のアイヌ文化期の出土品見学会も開催し、来場者は厚真町のアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れました。

JAとまこまい広域が新米50kgを寄贈

JAとまこまい広域(宮田広幸代表理事組合長)の代表理事専務、堀弘幸さんらが10月5日、厚真産の新米・さくら米(ななつぼし)50kgを町に寄贈しました。

堀専務は「猛暑による高温障害が懸念されましたが、作柄はよく豊作です。新米を食べていただき、皆さんと出来秋を喜びたい」と説明。宮坂町長は「農業者の皆さんの熟練の技で、胆振東部地震から3作目の素晴らしい収穫ができました。地元のお米、農産物を精一杯PRします」と謝意を伝えました。

新米は、町内のこども園2カ所と小・中・高校に学校給食として提供されました。



JAとまこまい広域から町に贈られた新米







内角総理大臣から送られた賞状や記念品を喜ぶ①奥村ソノ子さん、②窪田トクヨさん、③新飯田うめ子さん、④大居伊三郎さんたち

百寿のお祝い 内閣総理大臣の賞状と記念品贈る

百寿を迎えた町民4人に10月11日、町長から内閣総理大臣の賞状と記念品が贈られました。

記念品が贈られたのは、奥村ソノ子さん(朝日)、窪田トクヨさん(朝日)、新飯田うめ子さん(本郷)、大居伊三郎さん(上野)。町長が戸別に自宅などを訪問し、親族が見守る中でお祝いの言葉をかけ、賞状を読み上げて記念の銀杯を贈りました。4人は、「心からありがとうございます」と笑顔でお礼の言葉を寄せていました。

秋の全国交通安全運動 約130人が啓発

秋の全国交通安全運動初日の9月21日、厚真市街地で町交通 安全推進委員会主催の街頭啓発が行われ、約130人が交差点で交 通安全を呼び掛けました。

秋の運動の重点目標は、①子どもと高齢者をはじめとする歩行者の安全確保②夕暮れ時と夜間の事故防止と歩行者等の保護など安全運転意識の向上③自転車の安全確保と交通ルール遵守の徹底④飲酒運転等の悪質・危険な運転の根絶です。参加者は、交差点の沿道に並び、工事車両などに安全運転を促しました。



秋の交通安全運動で街頭啓発する参加者たち

畑嶋賢蔵さん(東和)方で抜穂祭



収穫した献穀米をわらで束ねる畑嶋さん(中央)

宮中に献上するお米を収穫する抜穂祭が9月22日、畑嶋 賢蔵さん(東和)の水田で行われ、参加者は良品質米の出来を 喜びました。

抜穂祭には、耕作長の畑嶋さんやその家族、町長、町議会議長、とまこまい広域農業協同組合など約50人が参加。祭壇で神事が行われ、実りの秋に感謝しました。引き続き、水田では、町長や議長など7人が横一列に並び、鎌を片手に丁寧に稲穂を刈り取り、自然乾燥させるため手際よく束ねてはさ掛けを行いました。

宮田組合長は「良品質米を生産していただきました。来月には、宮中に献納されると思います」と話し、宮坂町長は「丹精込めた素晴らしいお米ができました。素晴らしい実りです」とニッコリ。畑嶋さんは「満足な出来にホッとしています。使命を果たすことができました」と安どの表情を浮かべました。

乾燥を終えたお米は、11月23日(火)に皇居で行われる 新嘗祭に向けて、10月中旬に宮中へ献上されました。

町が岩田地崎建設株式会社に感謝状贈る

町は10月4日、町の産業振興と地域貢献活動に尽力したとして、岩田地崎建設株式会社(札幌市)に感謝状を贈りました。会社で町特産品を大口購入して販売促進に寄与したうえ、アンケート調査ではハスカップを使った酒類や乳製品などの新商品を望む提案もなされました。

感謝状は、宮坂町長から取締役専務執行役員の渡邊直樹さん に手渡されました。



町長から岩田地崎建設株式会社に贈られた感謝状

11 広報あつま R3.11 ca報あつま

一 表为の話題

交通安全推進委員の皆さん、ました。厚真駐在所長や町は、1時間42分でゴールし感・成就感を実感させるこ体と忍耐力を育成し、達成体と忍耐力を育成し、達成にました。厚真駐在所長や町石を考えながら20㎞のス配分を考えながら20㎞のス配分を考えながら20㎞のス配分を考えながら20㎞の 短 震災で稲田復旧進みゐて豊穣の秋刈り取り進むハンモック桂の葉陰ゆらゆらと読書の秋と空の青さよ川柳の間に見えた落陽が見はらし良くなり遠山に入 (9月27日) の会発

行

「文芸あつ

本豊上町沢野

飛谷富夫店崎静恵

Vol.263

厚高インフォメーション

Atsuma High school Information



学校の取り組みをご覧いただけます。

http://www.atsuma.hokkaido-c.ed.jp/

来春の入学を心待れて体験授業を行る した動画で学校を紹介全体会では、生徒会が 7 (10月8日) 待ちに 箇所に分 ま

月22日)

完走を目の個々の

■体験入学 (10月5日) ・学を行いました。体育中学校3年生を対象に体りました。

りました。 験や知識を深めまし図り、学校ではできた かを実感が れ、貴重な経験になき感しました。天気ら、稲刈りで豊かなりに植えた稲はスク

取り組むこと」を話し合い、取り組むこと」を話し合い、外が、自校や地域交流の取り組みを紹介。また、分科の組みを紹介。また、分科のが、意識を高めるために~防災意識を高めるために~なでは「私たちが、今できることが、 海道高校生防災サミ道内の高校27校に ました。 ーマは「地 した。 マトによる北

知識を深めました。知識を深めました、町を通して、土や作物を通して、土や作物を通して、土や作物がらクラスの交流がらからがある。

ることがら全点で、こ 海道高校生防災サ 主校生徒が が 汗を流 を流を 3

い頃

から抜粋 体育大会

大会を

明れの空の明れの空の

や準

ルとソフト 学備体操のたるした。午前

屋外体育大会

みはら しゅうた 三原 脩詩くん

残表します!! 将来の夢。目標

上厚真小学校6年



森崎 心くん



清野 百花さん

宮の森こども園児が 交通安全を呼びかけ



交通安全旗を手に安全運転を呼びかける園児たち

宮の森こども園の園児など約20人が10月13日、上厚真市 街地の交差点で初めて交通安全街頭啓発を行い、道行く車両 に安全運転を呼びかけました。

今年4月に着任した上厚真駐在所の大和由幸巡査部長が、 「秋の輸送繁忙期の交通安全運動」(10月12日~21日)にち なんで企画・実施しました。周辺は子育て世帯も多く、飛び 出し事故の防止など、幼いうちから交通安全意識を高めても らうのが目的です。

園児たちは、車両が通過するたびに「交通安全 みんなの 願い」と書かれた旗を振って交通安全を促しました。

町が株式会社丸斗工業と 有限会社沼田重機に感謝状贈る

町は10月14日、丸斗・沼田経常建設共同企業体の2社に 感謝状を贈りました。

株式会社丸斗工業(鈴木英毅社長)と有限会社沼田重機(沼 田正和社長)の両社は、上厚真小学校の敷地内にある倒木の 恐れがある樹木の伐採や使わなくなった簡易トイレの撤去、 散水栓にカバーを施して、児童たちの安全な環境づくりに奉 仕しました。宮坂町長はお礼の言葉を述べ、鈴木・沼田両社 長に感謝状を贈呈しました。



感謝状を手にする鈴木社長と沼田社長 (左から)

市街地花壇の冬支度整う



市街地花壇の冬支度をする参加者たち

町は10月21日、ボランティアの協力を得て市街地にある 花壇の冬支度を実施しました。

活動には、花フレンズと商工会女性部、役場職員を含め昨 年より10人ほど多い約40名が参加しました。84カ所ある 花壇に繰り出し、花の苗を取り除き、積もった落ち葉を集め ました。

参加者は互いに協力し合って町をきれいにして冬を越す準 備を整えました。

※この記事は、役場で職場体験を行った厚真中学校1年、大 垣尊良君が取材し、執筆、撮影しました。